

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームすまいる2号館

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200103		
法人名	医療法人仁泉会		
事業所名	グループホームすまいる2号館		
所在地	〒027-0096 岩手県宮古市崎鍬ヶ崎第9地割39番地70		
自己評価作成日	平成30年9月20日	評価結果市町村受理日	平成31年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act1on_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&Ji_gyosyoCd=0390200103-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年10月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当ホームの近くには同法人経営の介護老人保健施設ほほえみの里や、グループホームすまいる、グループホームたろうがあり、支援や協力を得やすい環境で安心して過ごすことができます。入居者様・御家族・地域の皆様との繋がり、馴染みの関係を大切に、いつも笑顔で生活できるよう努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、主要国道に近接し、周辺にはコンビニや地域の基幹病院があり森林に囲まれた自然豊かな新興住宅地に立地している。同地区には法人の介護老人保健施設やグループホームが設置されており、医療との連携のもと、医師や看護師の指示、指導などを得ているほか、各種行事の共同開催や避難訓練の協力など、相互に補完し効果的な介護サービスを提供している。地域の自治会に加入し、国道の花壇の整備や地域の祭りへの参加、小・中学生の資源回収への協力などの地域活動に取り組んでいるほか、各種ボランティアや看護学生の実習、高校生の職場体験を受け入れ、また、回覧板でグループホームの広報紙を一般家庭に配布するなど、地域との関わりを大切に地域に根ざした運営を行なっている。家族や利用者の要望や運営推進会議の助言、職員の提案を業務に反映させ、職員の資格取得支援など、より良い介護サービスの提供に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 30 年度

事業所名 : グループホームすまいる2号館

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見えるところに掲示し、共有を図っている。また、入居者様と関わる時間を増やし、理念の実践に繋がるよう努力している。	法人の理念に基づき、事業所独自の理念「いつも笑顔で『話』『輪』『和』」を定め、施設内に掲示するほか、職員会議や日々の申し送りの際に確認、共有している。年度ごとに個人目標を立て、職員との面談で進捗状況を把握している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回読み聞かせボランティアや飛び込みでのボランティアを受け入れたり、他事業所のイベントの参加、同法人のグループホームとの合同行事での交流、広報発行し、ホームの情報を地域の方々に伝えている。	自治会に加入し、地域の花壇の整備や資源回収などの地域活動への参加のほか、広報紙を一般家庭に配布するなど、地域との連携の強化に努めている。また、各種ボランティアや看護学生、中・高校生の職場体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回広報を発行し、ホームの状況を伝えている。近隣を散歩する時には挨拶、会話をし積極的にに関わり、認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催しホームの状況報告を行い、参加者からの情報を頂きホームの運営に役立っている。	市の担当者からは情報提供や制度改正の説明や感染症などの予防対策の助言をもらい、交番の警察官からの徘徊での行方不明時の対応策の提案を業務に役立っている。また、地域代表の民生児童委員の地域情報を得て各種行事に参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やメールで連絡を取り合ったり、運営推進会議に参加いただいてホームの情報を提供したり、アドバイスいただいている。	市主催の法改正による説明会や研修会に参加するほか、介護認定申請や生活保護関係事務で窓口を訪れた際に、市の担当者から助言、指導を受けている。市設置の防災ラジオやメールで適時の災害情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。法人内の勉強会やホーム内での勉強会、外部研修の伝講で身体拘束について正しく理解できるように取り組んでいる。日中は鍵をかけていない。	法人の身体拘束防止の指針に加え、グループホーム長会議で定めた指針を職員会議等を通じて職員に徹底している。身体拘束の事例もなく、玄関の施錠も夜間のみで、日中は開放し、センサーによる来所者等の確認を行っている。スピーチロックに特に配慮し対応している。	

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会やホーム内での勉強会にて正しく理解した上で虐待のないケアをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内勉強会や外部での研修に参加している。制度を利用してる入居者様もあり、関係機関との話し合いを持ちながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前または改定時に管理者から説明を行っている。不安や疑問に関しても面会時や電話等でその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は、意見箱の設置したり、施設内での苦情・相談先を張り出している。毎月のお便りの中に要望の記入欄を設けている。また、面会の際には対応した職員が入居者様の状況を伝え、御家族が意見や要望を伝えやすくなるような雰囲気作りに努めている。	家族の来所の際に要望等を聴き取るほか、毎月近況報告の「お知らせ」に併せて家族の意見・要望を募っている。また、日々の生活の中で利用者に寄り添い、問いかけ、把握した外出、散歩などの要望に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務会議や申し送りノートを活用し、業務の見直しや提案を行っている。	年4回の職員面談のほか、毎月の職員会議で意見や要望を把握し、用品や備品の整備、記録の入力の改善など、業務に反映させている。資格取得を職員に働きかけ、外部研修に派遣するなど、職員資質の向上にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに各職員に個人目標を立ててもらい、目標が達成できるように進捗状況の確認をしたり、アドバイスをしたり、環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の業務会議で勉強会を行ったり、法人内外の研修を受ける環境作りを行っている。また、資格取得に向けて研修に参加できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの合同行事や交換研修、グループホーム協会のブロック研修などの機会を通じて交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で要望を聞きながら入居に向けての準備を行っている。入居後、入居者様との会話日常の状態を観察して、職員全員で話し合い、統一したケアをすることで安心した生活が送れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同様入居前や入居後に要望や不安などを聞き、信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に入居者様・御家族の意見、要望を聞き取り、ケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事を把握して家事や作業と一緒にいき、感謝の声掛けをしている。入居者様それぞれのレベルに合わせて本人が意思決定できるよう支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況は、面会や毎月のお便りの中で本人の状況を報告し急な出来事や体調の変化の際は電話連絡を行っている。必要に応じて通院の同行をお願いし、共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から通院している自宅そばのかかりつけ病院への定期受診や、以前受けていたサービスの場へ足を運び、友人と面会したりしている。家族と外出し、馴染みの美容院へ出向いたり関係が途切れないようにしている。	家族と一緒に彼岸やお盆の時期に自宅を訪問し、時には食堂で外食し、さらに、馴染みの美容院にパーマをかけに出かける利用者もいる。ドライブなどで外出する際には、出身地の馴染みの場所を巡ってくるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、お互いの居室を行き来したり、軽作業の際には声を掛け合い、必要に応じて職員が間に入り橋渡しをする事で、支えあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も関係機関への情報提供等の支援を必要に応じて行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、御家族から希望や意向を聞いたり、生活歴や日常の会話の中から聞き取りを行っている。また、希望や意向の把握に努めている。	利用者の経験や知識、生活歴と心情を大切にしながら、生活の中で利用者の意向を把握し、利用者の笑いを引き出せるように努めている。また、民間の学習療法を取り入れ、頭の体操、簡単な計算などにも取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、センター方式用紙を使用し、必要に応じて本人や御家族から聞き取りを行っている。また、課題分析表を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや状態観察、本人の行動や発した言葉等記録し、申し送りノートカンファレンス等で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、評価・見直しを行い、御家族にも説明し、介護計画を作成している。	原則3か月ごとに計画の見直しを行い、ケアマネ作成の原案を基に利用者担当職員の評価を加え、職員会議でのカンファレンスを経て医師の指示や指導、家族の意向を反映させ、計画を作成している。緊急の場合は、随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前と午後に個別の記録を記入し、また何かあった時にも記入している。申し送りノートを活用し、些細なことも共有できるようにしている。カンファレンスは月1回開催し、柔軟な対応ができるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況の変化により、カンファレンスのほかに必要に応じてミニカンファレンスを開いて、柔軟に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高校生の職場体験学習、看護学生実習の受け入れ、地域のボランティアサークルの読み聞かせや歌、軽体操等交流の場を設けている。また、職員と一緒に買物や散歩に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や御家族の希望があれば馴染みの医療機関を継続し受診している。	家族同伴でかかりつけ医受診を原則としているが、家族の要請により職員が同行するケースが多いが、検査の際には家族にも同行を求めている。専門科も同様である。歯科は協力医を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の来設、体調不良時は24時間体制で緊急時も相談・指示含め、対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医・担当看護師・医療連携室と情報交換を行い、御家族を含め、安心して治療できるように連絡を密に取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向を伺っている。ホームでできる事や、状況に応じて他のホームや介護老人保健施設への住み替え等を説明している。	重度化した場合や終末期には、老健へ入所することで、入居時に家族に説明し、同意を得ている。看取りの実績はない。家族等の意向の把握に努めている。	かかりつけ医や訪問看護ステーションの看護師の支援・協力を得ながら、職員の知識・能力の向上を目指し、他事業所の取り組み事例の収集など、看取りを可能とする体制構築の取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師による勉強会や救命救急講習会など定期的に受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練や防災訓練等を実施している。また、地域の方や近隣施設も参加し、協力体制を築いている。非常時の備品・食料品等も揃えている。	年2回、消防署員立会いのもとに、避難訓練を実施している。夜間想定訓練も併せて実施している。地域住民による協力隊の支援のほか、法人の他施設の職員の協力を得ている。食材、暖房機、ガスコンロ、発電機など備蓄している。災害情報は市設置の防災ラジオ等から入手している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるということを念頭におきながら、その方の認知症状も理解した上で言葉のかけ方、声のトーンなどを工夫しながら対応している。	個人情報、個別ファイルのほか、パソコンで保存しパスワードで管理している。広報紙への写真掲載は、予め家族の同意を得ている。居室への入室、ドアの開放など、利用者の意向に沿って対応している。異性介助についても要望に沿っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思決定できるような声掛けや選択肢を提示して自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の本人の体調や希望で過ごしやすいペースになれるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を尊重した上で、毎日の服装や外出時に季節やその日の天候に合った服装の選択ができるよう支援している。散髪は本人・御家族の希望に沿って対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会には本人の好きな物が提供できるよう、また、メニューが選べるよう声掛けし自己決定を促している。一緒に準備を行い、できる事への支援も合わせて行っている。	献立は、職員が作成し旬の物、地域の食材（海産物など）も加味して提供している。行事食は、夏の流し素麺、年末のお煮しめ、正月のお節料理などのほか、誕生日には赤飯を用意している。利用者は、下準備や食器洗いなどを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士から指導を受け、バランスの良い食事作りを心掛けている。また、医師より水分摂取等の指示をもらい、個々に合わせた形態、それぞれの食事にかかる時間を考慮し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助などそれぞれの能力に合わせた支援を行い、清潔を保持している。口腔ケア用品も個々の口腔状態に合わせて使い分けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、介助の必要な方には排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行っている。	利用者ごとの排泄チェック表を作成し、それとなく誘導、案内している。全員がトイレを利用し、昼間は布パンツ3名、リハビリパンツ6名で、夜間はオムツやパットを併用する方もいる。夜間用にセンサー、ポータブルトイレを利用する方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の活用と食事・水分量の把握をし、食事の内容の工夫、散歩や軽体操を行うなど便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきに入浴をしているが、希望があれば毎日でも入浴できる。希望の時間を聞くなどし、気分良く入浴できるようにしている。声掛け時拒否があっても体調に問題がなければ後からもう一度声掛けしたり、職員を変えて声掛けし、入浴できるよう支援している。	毎日午後入浴とし、平均で週3・4回入浴している。入浴を嫌がる方は、時間や曜日を変更して対応している。季節には菖蒲湯やゆず湯とし、歌や世間話に加え本音を話されるなど、楽しい入浴になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調、前夜の申し送りの内容を考慮し、休息が取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明・用法・用量については入居者ごとにファイルし、通院録と合わせて確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽体操・軽作業・散歩・工作等それぞれに合わせた気分転換ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の支援で外出したり、近隣のホームと合同で行事をしたり、ホームでの買物の際に外出できるよう努めている。また、行事としてドライブなどを計画し外出している。	天気の良い日は、住宅地周辺を散歩するほか、ラジオ体操を外で行なっている。近くの老健やグループホームを訪問し、利用者からお茶を頂くこともある。地域の方と一緒に釜石観音を訪れ、花見や栗拾いにドライブし、市内の他グループホーム主催の認知症カフェにも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金を所持している人がいない。ホームでは個人の所持金に関しては管理していない。以前、御家族了承のもと、個人で所持している方がおり、好きな物を買っていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をかけたり、受けたりの支援は行っている。また、手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節を感じられるような装飾を入居者様と作り、掲示している。共有スペースの長椅子やソファ、畳間など自由に使えるようになっている。	高い天窓と南向きの窓から明るい光が差し込み、クリームと茶のツートンカラーの落ち着いた雰囲気の中、畳の小上がり、ソファ、食事用テーブルなど思い思いの場所で寛いでいる。温度や空調はエアコンやパネルヒーター、ファンヒーター等で管理されている。月ごとの季節の行事の作品をボードに掲示し、植物や季節の飾りに囲まれた快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に誘い合ったり、廊下の長椅子や窓際のソファ等それぞれが過ごせる居場所作りができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、馴染みの物を持ち込んだり、写真や本を置く等、本人が安心して過ごせるようにしている。	ベッド、洗面台、クローゼット、テレビ端子、ナースコールが設置されている。衣装ケース、家族写真、鉢物、化粧品など、利用者の思いに沿った品物が持ち込まれ、パネルヒーターや加湿器等で管理された居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を大きく分かりやすくしたり、居室にはネームプレートを本人が見やすい位置に掲げており、居室が分からなくなっても自分で確認できるようにしている。また、常夜灯もつけ、夜間でも安心して移動できるようにしている。		